

3-4 メコンデルタの貧困層が抱える課題と リスク軽減への展望～ ベンチェ省を事例として

はじめに

ベトナム南部に位置するメコンデルタは、ベトナムの農業と経済発展を牽引してきた。しかし、近年、メコンデルタに住む人びとの暮らしは、かつてないほど脅かされている。その理由のひとつが、気候変動による海面上昇である。

世界銀行の2007年の報告 (Dasgupta et al. 2007) では、ベトナムは、世界でもっとも気候変動の影響を受ける国のひとつであり、海面が1m上昇すると、人口のおよそ10%が影響を受けるとされている。ベトナムの天然資源環境省は、2009年、「ベトナムにおける気候変動と海面上昇に関するシナリオ」(Bo Tai Nguyen va Moi Truong 2009)を作成し、各省がこのシナリオにもとづき、堤防の建設など、具体的な対策を講じはじめている。2012年に最新のシナリオが公表されたが、これによると、気候変動の影響を3段階に分け、影響力が「中」であった場合、海面が1m上昇すると、メコンデルタの面積の39%、最悪のシナリオでは、海面が2m上昇すると、メコンデルタの92%以上が浸水するとされている (Nguoi Lao Dong 2012)。

また、メコンデルタへ流れるメコン河の水量が20～30%減少していると云われている (VTV 2013)。メコン河の水量が減れば、必然的に、海水が河口から内陸へと進入し、塩害が拡大する。本稿では、こうした環境の変化の中で、筆者が農村開発事業を実施しているベンチェ (Ben Tre) 省ビンダイ (Binh Dai) 郡を例として、最近実施した聞き取り調査の結果をもとに、メコンデルタに住む貧困層が直面している問題と今後の展望について記述する。

エビの憂鬱

ベンチェ省は、ホーチミン市より南西約80kmに位置し、人口は約125万人である。周囲をメコン河の支流に囲まれていることから、ベトナム国内でも海面上昇の影響をもっとも受ける省のひとつと云われている。ビンダイ郡は、ベンチェの町よりさらに東へ50kmのところにある。人口は約14万人で、20の町と村からなる。南シナ海に面しており、沿岸部に住む人びとは、塩田や天然の魚介類の採取によって、内陸部に住む人びとは、おもに稲作とココナツ栽培によって生計を立ててきた。2000年代に入り、換金性の高い果樹やエビ養殖、輸出用のコメ栽培が行われるようになった。

ビンダイ郡の沿岸部にあるタインフック村 (人口1万5人) では、村人の多くが塩田と天然のエビ・魚の採取、そして稲作によって生計を立てていた。2000年代に入り、エビ養殖ブームとなり、多くの村人が水田や塩田を養殖池へと改造した。しかし、収入が得られた期間はわずか数年で、その後は、工業用飼料や薬品などの過剰利用によって水源が汚染され、放したエビが死んでしまい、村人は借金を抱えた。

こうしたなかで、乾季には潮の満ち引きを利用した粗放的なエビ養殖を行い、雨季には塩分が多い地域でも育つ在来種の稲を植え、さらにアヒルを放すことで生計を立てようとする村人がある。エビ養殖で借金を抱えた A さんは、「水路から入ってくるカニやエビを捕って市場で売れば、毎日の収入になる。コメを作って、アヒルを育てれば、食卓も豊かになる。集約的なエビ養殖はやらない」と話している¹。

コメの憂鬱



塩害の被害に遭い収穫できなくなった稲

海岸より内陸へ約 25km 入ったところにあるチョウフン村(人口 5,643 人)は、2013 年、はじめて深刻な塩害に遭った。この村に住む B さんは、約 0.2 ㊦の土地で家畜を飼って生計を立ててきた。2011 年に豚の肥育の規模を拡大しようと、政府系の農業銀行(アグリ・バンク)からお金を借りた矢先、「青耳病」と呼ばれる伝染病の発生による価格暴落で赤字となった。2012 年、アヒルを約 1,000 羽肥育したが、500 羽が農薬の影響で死に、残りの 500 羽は出荷する際に価格が下落し、赤字が増えた。この赤字を克服するために、2012 年末、2.7 ㊦の農地を借りて

稲作を行ったが、塩害に遭い、ほとんど収穫できなくなってしまった。B さんの水田には、枯れかかった稲が残されていた。

B さんは、筆者が代表を務める Seed to Table²の活動に参加し、アヒルの肥育に取り組んでいる。25 羽を借り、順調に育て、現在は、200 羽に増えている。「残っている借金や水田の土地使用料を支払わなければならないから、稲作は続ける。ホーチミン市へ出稼ぎに行くほか、アヒルの肥育を成功させて、なんとか現金を得ていきたい」と語った。

チョウフン村では、例年よりもほぼ 2 か月早く、2013 年 2 月に水路に海水が混じりはじめた。このことにより、水田面積の 3 分の 1 が影響を受け、水路から生活用水を得ている村人への影響も深刻である。ビンダイ郡では、チョウフン村のほか、フータイン村やトイライ村など、多くの村で稲が塩害に遭い、約 300 ㊦の水田で収穫ができない。ベンチェ省では、ビンダイ郡のほか、パーチャー(Ba Tri)郡、ゾンチョム(Giong Trom)郡、タンフー(Thanh Phu)郡などでも同様の被害が見られ、被害は今後も拡大すると予想されている³。

今後の展望

すでに、天然資源環境省の「シナリオ」にもとづき、ベンチェ省によって、メコンデルタの海岸沿いに、侵食を防ぐための堤防と海水の進入を防ぐための堰の建設が始まっている。しかし、工事は始まったばかりで、完成するまでには相当の時間を要すると思われる。この間、メコン河の水量が減少し、海面の上昇が続けば、塩害がひどくなり、農家は早期に対策を講じる必要性に迫られるであろう。

チョウフン村のように、これまで塩害で被害を受けていない地域は、稲作の回数を減らし、乾季には塩害に強い作物を植えるほか、アヒル水稲同時作など複合農業を実践し、小さな

<自然と私たちの未来を考える～メコン河流域と日本～>

面積でも収量が高く、多様な生産物を得られるような工夫を行い、暮らしを守っていくことが必要となるであろう。タインフック村など沿岸部では、粗放的なエビ養殖とアヒル農法を組み合わせている A さんのように、地域の条件を活かしたリスクの少ない農法に取り組む必要が出てくると思われる。これからもベンチュエ省ビンダイ郡の人びとの試行錯誤は続く。



タインフック村でアヒル農法と粗放的なエビ養殖に取り組む小規模農家

<参考資料：英語>

Dasgupta, Susmita et al. 2007. The Impact of Sea Level Rise on Developing Countries. A Comparative Analysis. World Bank Policy Research Working Paper 4136.

<参考資料：ベトナム語>

Bo Tai Nguyen va Moi Truong. 2009. Kich Ban Bien Doi Khi Hau, Nuoc Bien Dang cho Viet Nam.

<http://upd.edu.vn/attachments/article/39/KichBanBienDoiKhiHauVietNam.pdf>

Nguoi Lao Dong 紙報道 (2012年7月1日)

<http://nld.com.vn/20120701101847398p0c1002/nuoc-bien-dang-doa-xoa-so-dbscl.htm>

VTV ニュース (2013年3月21日)

<http://vtv.vn/thoi-su/thieu-hut-ngiem-trong-nguon-nuoc-o-dbscl/61125.vtv>

(伊能まゆ／特定非営利活動法人 Seed to Table)

-
1. 2013年3月、タインフック村で行った聞き取り調査の結果による。
 2. <http://seed-to-table.org/activities.html> を参照。
 3. 2013年3月、チョウフン村で行った聞き取り調査の結果と、同3月30日のVTC14のニュースによる。